UNIVERSITY CONSORTIUM KYOTO

会報 2016. Jan No.47

特集① 京都橘大学 ～加盟校紹介～
「マスタープラン2022」への取り組み－学長、大学事務局長インタビュー

特集② コンソーシアム事業で活躍し、成長する学生たち
❶京都世界遺産PBL科目　❷京都学生広報部

2015年度 指定調査課題 ／ Topics 今後の事業の展開

Information SDゼミナール（2015年度実施報告＆2016年度予定）

表紙の写真：京都学生広報部

公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

［特集１］加盟校の紹介

京都橘大学

京都橘大学では、2005年度に男女共学化され、短期間に新しい学部や学科を開設されています。また他大学ではなかなか取り組まれていない医療職者養成といった分野でも次々と新学部や学科を設立され、医療分野にも多くの学生を輩出・貢献されています。2015年を初年度とした「マスタープラン2022」も策定され、将来に向けての使命や将来像を示されている京都橘大学に、取り組みの現状や、今後、学園として目指すブランド戦略、大学コンソーシアム京都に期待すること等について、お話を伺いました。

細川 涼一　氏　京都橘大学　学長
久保 三喜男　氏　京都橘大学　大学事務局長

KYOTO TACHIBANA UNIVERSITY

多様な学生が１つのキャンパスで学び、社会を支える存在となる

Q　京都橘大学としてこのような事業方針を策定するに当たり重視された点、背景にあった課題などを、まずはお聞かせいただきたいと思います。

［**学長**］2005年に大学名を京都橘大学と改称し、共学化してちょうど10年です。また、この10年間で「自立・共生・臨床の知」を教学理念に掲げ、看護学部の設立に始まり医療系を充実させてきました。

一方、18歳の人口減が厳しくなってくる、いわゆる2018年問題の中で、大学の生き残りが社会的な話題となるわけですけれども、高等教育機関というのは、学生を育て、社会に送り出していくことに、確固とした理念を持たなければいけないと思います。そのところを、ともすると経営が厳しいという話だけになると忘れがちになる中で、共学化から10年たった今、さらに将来を見据えて、われわれ京都橘大学がどのように学生を育て、社会に送り出していくのかを、もう1回、教職員でちゃんと共有しながら先へ進んでいきたいと思っております。遡ると前身の京都女子手藝学校の創立が1902年で、もう少しで115周年になりますが、2017年には大学創立50周年を迎えます。

これまでは「大学創立から何年」という言い方をしていましたが、京都橘大学は明治から続いていますし、ずっと教育への理念と精神を持ってきた大学だということを、学生たちにも知ってもらいたいという思いがあります。また創立者の言葉に「実業教育」があります。学生たちが、「自立・共生・臨床の知」で自分の力でもって社会人としてやっていけるように社会に送り出していく。そのような大学であることを、もう1回、確認したいと考え、将来に向けての覚悟を見据え、マスタープランを策定しました。

Q　建学の精神に立ち返り、事業展開に繋げている、ということですね。実業教育の表れの一つと思いますが、看護学部、また、救命救急学科は他にはあまりない学部・学科です。特にそういう分野に焦点を当てられた背景には何があったのでしょうか。

［**学長**］京都橘大学の立ち位置を見据えた場合、いわゆる社会の分厚い中堅層、ここを支える人材を送り出すことが役割だと考えています。この中堅層がきちんと機能してこそ日本社会は良くなるだろうと思っているわけです。それが、今、一部の富裕層と貧困層とへの二極分化が言われているわけですけれども、大げさな言い方をすれば、中堅層の部分が分厚くなり、ここの部分がきちんとした高等教育を受け、自分の

力でもって経済的にも自立し、社会と自分との関係を考えていく。そして、地域社会の中でお互いに手を取り合って共生していく、そういう教育に力を注ぎたいということです。具体的に言えば、自分の職業に生きがいを持って、地域社会に貢献していくことだと思います。地域社会への貢献はいろいろな分野で可能ですが、今、高齢化社会と言われる中で、地域住民の様々な生活の局面において、お互いに役割を分担しながら、手をつなぎ合っていく形での学部・学科設置を目指したいと思っています。看護学部、健康科学部では心理学科や理学療法学科、さらに来年度には救急救命学科を開設します。医療の各分野で、役割は分担しながらも、地域社会にはトータルで貢献する、卒業生がそのような仕事で活躍することを期待しています。

Q　生きがいを持って地域社会に貢献できる担い手の輩出を目指すというお話ですが、看護や救命救急は、地域貢献につながりやすい反面、一方で文学部等の人文科学系は学んだことがすぐに社会貢献につながるか、見えにくい分野です。医療系学部との違いはありますか。

［**学長**］先に地域社会への貢献を分担していることについてお話ししましたが、一方で、大多数の学生たちは企業に就職していくわけです。企業が機能していないと、日本社会の経済も機能しない。その部分を担うのが、ある意味で言えば社会科学系の現代ビジネス学部と人文系の文学部になってくるかと思います。文学部は、京都橘大学の発足当初、女子大であった時代からの伝統ある学部です。今の時代、文学部は社会的にも風当たりが厳しい面があるわけですが、良き市民、良き国民が自分の頭でもって考え、判断し、行動する、そういう意味でのリベラルアーツ的な教育を行う部局として必要だと思うんです。学部として体系的な学習があることに加え、京都橘大学が医療系の学部・学科の学生にも、医療の知識や技術のみを学ぶだけでなくて、「人によりそう看護」には人間のことを深く知ることが必要だ、ということも意識させる。そういう意味で文学部、現代ビジネス学部といった人文科学系等の学部があることが、総合大学の役割でもあると思います。私どもは、そこのところは自信を持っています。人文系から社会科学系、医療系までの５学部あることには、大きな意味があると思っております。

Q　人文・社会科学系が医療系と一緒になって、相乗効果で分厚い中堅層を支えるような人を育てているということですね。

細川涼一学長

［**学長**］京都橘大学は 5,000 人規模の大学を目指しているわけですが、それでも中規模の大学だと思います。その代わり、全学部がこの１つのキャンパスにあります。例えば、サークル活動等の課外活動では、文学部から医療系の学部までの学生たちが互いに交じり合って、一緒に活動しているわけなんです。そういう中で、学び、そして友だちをつくっていく意味は、十分にあるだろうと思っております。中規模なりの良さを生かしていきたいと思います。

Q　大学の規模もメリットの一つですね。京都橘大学では地域連携事業にも積極的に取り組んでいらっしゃいます。学生同士の相乗効果と同じく、地域連携もいろんな人たちと接点を持つことによる相乗効果を狙っておられるのかな、と思いますが、いかがでしょうか。

［**学長**］学生には、地域社会に生き、そこで生きがいを持って活躍してくれる人に育ってほしいと願っています。ですから、京都橘大学は地域を大事にしています。大学自体は京都の中心からは離れていますが、山科区、伏見区は住民の数が多く、高齢化の問題等も深刻です。そういう中での、本学の立地を生かした上での地域との連携があると考えております。

具体的に言えば、山科の商店街が元気になるような取組みや、看護学部の学生が教員と一緒にお年寄りの方たちを相手に健康相談を行っています。また、高齢化の進む醍醐中山団地では留学生と日本人学生がシェアハウスに住んでいますが、彼らが団地の方たちと交流することで、学生たちもご年配の方から学び、団地の方たちも若い人たちと交流することによって活気づいていく、具体的にはそういう展開をしております。

Q　学生のみなさんの成長や変化は具体的に団地の中のどのようなところで見られますか。

［**学長**］学生がどう成長しているかについては、少し長い目で見る必要があります。正直な言い方をすると、団地の自治会も、学生にすぐ何かをしてほしいということをストレートに期待されているわけではないんです。空き部屋に学生たちが住んで、日常的に貢献してほしいというよりは、まずは近隣に迷惑を掛けない形で普通の生活をしてくれれば結構だ、そういうところから地域とのつき合いが始まっているんです。

久保 三喜男
大学事務局長

もちろん、個々の学生の感想には良かったとか、いろいろ出てくるけれども、学生の成長にとって地域連携がどう反映したのかについては、もうちょっと長い目で見ていただきたいと思います。

Q　地域との連携の始まり、最初の接点はどこからスタートするのでしょうか。地域から大学への要請がきっかけなのでしょうか。

［**学長**］女子大時代に文化政策学部をつくり、その後の改組で、現代ビジネス学部に至っていますが、学部を作り上げてきた教員が、今も現代ビジネス学部の中におり、地域との連携で先進的な役割をしてくれました。山科区では、清水焼団地と接触を持つことがきっかけだったり、商店街の活性化をまちおこしの中でやってくれたことから始まりました。教員が学生を連れて地域に入っていくという教育的課題と、山科区の清水焼団地等々の地域のご要望とがちょうど合致したところが、山科に関してはあったと思います。また、行政からの働きかけで連携が始まる例もあります。

Q　一方で、学生は長くても４年でメンバーが交替し、継続性が課題かと思いますが、京都橘大学ではどのような対応をされていますか。

［**学長**］大学組織としては、地域連携推進機構、地域連携センターで継続的な支援を行っていきたいと思っております。学生に関しては、温かい目で見ていると言ったらいいのか、必ずしも過大な期待を抱いているわけでもないんです。学生が４年間で成長して卒業していくことは、住民の方もよくご存知です。言ってみれば、学生や若い人たちが自分たちに声を掛けてくれて、コミュニケーションが成り立てば、それでうれしいというところもあるんですよね。だから、２つを分けて考えるべきだろうと思っております。１つは、大学という機関として、また教職員集団という１つの組織として、いったん関係を取り結んだ地域にはきっちりと責任を持ち続けます。もう１つ学生に関しては、地域での活動で何らか得るものがあり、卒業して社会人になったときに、経験として生かしてくれたらそれでいいのではないかと思っています。

Q　地域連携推進機構のトップを学長自らが務められ、大学を挙げて地域と教育・研究をつなぐ体制を構築されていることも、組織として責任を持って地域連携に取り組んでおられる表れですね。

それでは最後に、大学コンソーシアム京都の今後のどのような活動に期待をされていますか。

［**久保事務局長**］京都に全国から学生を集めるという牽引力をもっと強めていくための活動に期待をしております。これから2018年問題で18歳人口の減少が始まり、今後さらに人口が減っていくと、どうしても個別大学ごとの生き残り策に力が分散し、大学相互の交流自体が停滞する危惧があります。そうすると、全国的に見た場合、京都が沈没しかねません。「大学のまち・京都」として発展し続ける仕組み、牽引力を大学コンソーシアム京都に期待しています。

あとは、最近、海外を含めて京都へ来られる方も増えていますし、京都にある大学の宣伝については、なおいっそうお願いできればと思います。

Q　京都橘大学では、海外からの留学生は増えていますか。

［**学長**］これまで本学では、留学生の受入れを増やす方針は特にありませんでした。ただ、今後は意識して留学生を増やす方法を考えていきたいと思います。グローバル社会といっても、アジア社会との関係は必ずしもうまくいってないような点もあります。だからこそ、若い人たちにはきちんと自分たちの目で、アジア社会を含めた形でのグローバル社会について考えてもらいたいです。今、袋小路にあるアジアとの関係についても、学生たちが自分たちの考えでもって、新しい時代をつくっていってくれることを願っています。そういう意味では本学も、今後はグローバル化とより主体的に関わっていくべきと考えています。

【取材日】2015年11月12日

京都橘大学ホームページ
http://www.tachibana-u.ac.jp

つながる、たちばな
50th ANNIVERSARY
since 1967

インタビューを終えて（事務局より）

学生の成長に対する細川学長の熱い思いがひしひしと伝わるインタビューでした。ご多忙の所、貴重なお話を聞かせて下さり、ありがとうございました。

インタビュアー

公益財団法人 大学コンソーシアム京都　事務局長　　徳永寿老
公益財団法人 大学コンソーシアム京都　副事務局長　西川 千嘉子

2015年度　大学コンソーシアム京都 指定調査課題

大学コンソーシアム京都は、中期計画「第４ステージプラン（2014 ～ 2018 年度）」において、
事業の改善・見直しや新規開発・高度化等に資することを目的に、指定調査課題を設定し、
専門分野の研究者による調査研究を行っています。
2015 年度は以下の３つの課題について研究者の皆さまに取り組んでいただいています。
2016 年３月には調査研究の成果報告会も実施します。

京都学生祭典学生実行委員に対する活動を通じた成長実感調査
～インターカレッジ活動の効果検証と更なる事業改善に向けて～

研究代表者／京都文教大学　森正美教授

[研究の背景と目的]

京都学生祭典実行委員会の活動における他大学の学生や社会人との交流、企画立案ならびに運営・実施等の様々な活動を通じて、学生実行委員のジェネリックスキルやプロジェクトマネジメントスキルが育まれていると予想されます。しかし、これまで学生祭典活動における教育効果の調査・報告は十分に行われてきませんでした。そこで、実行委員会の活動を通じて、学生が具体的にどのように成長するのか（教育効果）をプログテストやインタビューを実施のうえ、定量的・定性的に分析することで明らかにし、各種ステークホルダーに対して事業の意義や効果を説明する材料とすることを目指しています。また京都学生祭典の運営･指導方法の見直しなど、更なる事業改善に活かします。

インターンシップ修了生に関するアンケート調査

研究代表者／立命館大学　河村律子教授

インターンシップ事業では、これまでプログラム直後にアンケートを実施し、その教育効果を測定してきました。修了後一定期間を経た学生に対する追跡調査を2007 年度に実施しましたが､インターンシップをめぐる状況も相当変化していることから、2015 年度にもアンケート調査を実施し、大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムに参加した過年度の修了生において、インターンシップの経験が大学生活および卒業後のキャリア形成、人格形成にどのような影響を与えたのかを明らかにします。そのため、リサーチクエスチョンを設定し、インターンシップの教育効果を測定していきます。また、アドバイザー的役割を果たす OB/OG を開拓し、社会人となった修了生の目から本プログラムの精緻化に貢献してもらう目途で、大学コンソーシアム京都からの案内を受け取るかの意向も調査します。

外国人留学生の日本および京都地域における就業阻害要因に関する調査

研究代表者／京都産業大学　中谷真憲教授

[研究の背景と目的]

グローバル化の進展に伴い、外国人留学生（以下、留学生）に対する企業の採用意欲は増しており、京都に多い中堅･中小企業も例外ではありません。しかし、留学生側の地元企業に対する認知度は、日本人学生に比べても低い状況です。本研究では、留学生、大学、企業の三者を対象にアンケート、ヒアリング等を行い、留学生の就業、特に京都企業への定着を阻む壁がどこにあるのかを分析することを目的とします。また、その障害を取り除くための効果的な教育手法とは何か、企業や行政からの支援情報の伝え方として有効な方法とは何か、あるいは留学生（外国人）増大に伴う地域住民の不安があるとすればどのような対処が可能か、といったことまであわせて総合的に考察します。

成果報告会・交流会のお知らせ

上記３件の調査研究テーマの成果を広く発信するとともに、大学の枠を越えた研究者同士・教職員の交流を図るため、右記のとおり成果報告会・交流会を開催します。是非ご参加ください。（参加費無料）
【詳細は大学コンソーシアム京都の WEB サイトでご確認ください】

成果報告会・交流会
2016年３月15日（火）
場所／キャンパスプラザ京都
［成果報告会］18時30分～
［交流会］20時30分～

［特集２］

コンソーシアム事業で活躍し、成長する学生たち 1

京都世界遺産 PBL 科目

大学コンソーシアム京都は、様々な加盟大学・短期大学から学生が集い、学びあい、成長できる多様なプログラムを実施しています。今回はその中から、正課授業として取り組む「単位互換事業」の一つ、「京都世界遺産 PBL 科目」と課外活動として取り組む「京都学生広報部」をご紹介します。

「京都全体で学生を育て、明日を切り開く人材の輩出をしたい」という想いから2015 年度スタートした「京都世界遺産 PBL 科目」は、「明日の京都　文化遺産プラットフォーム」の協力を得て、６つの世界遺産を舞台に６大学の７科目が開講されています。今回はその中から「清水寺×立命館大学　境内の見どころを巡るバリアフリー動線の提案」（担当教員：立命館大学理工学部 宗本晋作准教授、青柳憲昌講師、加戸啓太助教）を受講している学生のみなさんに、昨年 10月24日に開催された「2015 年度京都世界遺産 PBL 科目　中間発表会」終了後にお集まりいただき、授業の魅力やご自身の成長について語っていただきました。

「清水寺×立命館大学　境内の見どころを巡るバリアフリー動線の提案」の活動目的・概要

清水寺の既存のバリアフリー動線について、より楽しめる見どころ、新しい視点を取り入れながら見直し、映像形式で改善案を提示することを目的としています。
5 大学・17 名の受講学生を 4 グループに分け、フィールドワークを実施し、見どころの理解を深めた上で、既存のバリアフリー動線の問題点を発見。その上で車椅子ユーザーに、より一層清水寺を楽しんでいただくために、見どころの紹介・ルートの改善を考案します。
最終的には提案を動画形式でまとめ、清水寺ホームページからのリンク等での紹介、公開を予定しています。

Q まず、この授業を受講したきっかけを教えてください。

▶岡澤　履修要項を見る中で、他大学の授業を受講する、というのを見つけました。他にも二条城で活動する授業もありましたが、宗本先生の授業を選んだのは、自分の大学では学べない建築の授業を受けたいと思ったからです。

▶鷲尾　僕は土木系の勉強をしていますが、もともと建築志望だったんです。この授業の担当が建築の先生で、授業を受けてみたい、と思ったのがきっかけです。

Q 実際に授業を受けてみてどうですか。難しかったところ等はありましたか。

▶古里　大学では座学が多いんですが、この授業はフィールドワークが多いところにすごくびっくりしました。現地調査という学習も新鮮で楽しいです。今回は動画作りが最終的にあるんですけど、宗本先生の作られた動画を見て、熱意をもってやろうと思うようになっています。

▶北田　僕は土木関係の学科の学生です。普段からフィールドワークは結構ありますが、いつも環境や自然が相手です。今回は障害者の方やバリアフリーが対象で全く違う発想が必要で苦戦しています。でも、メンバーの文系の人の話を聞いて、障害者の方の気持ちになって考える、という視点を取り入れることができたことが良い経験になったと思います。

▶海野　バリアフリーがテーマなので、最初はスロープを付けるといったことを考えていました。でも、清水寺は世界遺産なので、簡単に工事はできないし、費用も高額になることから、その方針は撤回しなければいけませんでした。
そこで、車椅子の観光客や介助者が楽しめる視点から、実際に車椅子を使って清水寺を回ってみました。すると上り坂がきつく、手や腰の疲れを感じ、そこから休憩場所が少ないこと、でも適した場所もあることに気付き、休憩場所を増やすことを提案しました。

▶若山　一緒にチームを組んでいる龍谷大学の学生の仏教の知識が豊富で驚きました。今まで自分の周りにはそういう人はいなかったので、学生目線での仏教の話はすごく面白いです。反対に僕は建築関係の学科なので、清水寺を建築の視点から見ています。先生方も建築の視点から専門的な説明をされるので、僕は面白いのですが、建築系の出身じゃない学生もいるので、その部分はみんながどう思っているのか気になっています。

▶中島　私は仏教学科に所属していて、お寺に普段から触れているんですけど、宗派とか思想とか仏像とか、普段は内面的な見方が多かったんです。今回、建築の視点や観光客の方の目線でお寺を見ることができ、とても新鮮でした。

▶若山　それが清水の舞台を見ている時に「屋根の曲線美がいいなぁ」って言うようになったもんね。

▶一同　すごい変化やん（笑）。

▶海野　いろんな事態・制約に備えて臨機応変に対応できる人がこの授業には向いていると思います。僕のチームは３人のうち２人が理系で、文系は１人なんです。理系の人は段階を踏んで進めていくんですね。反対に僕は文系で「暇があるから一気にやってしまおう」という感じです。それぞれの個性をミックスできれば上手く進められるんじゃないかなと思います。

Q この授業で学びたいことや、身につけたい能力はありますか？

▶中島　私はすごい文系人間で、全然機械が扱えません。授業で動画を撮る必要がありますが、さらにその編集もしなきゃいけない。今回の事をきっかけに色々できるようになって、普段の勉強にも活かせるようにしたいと考えています。

▶鷲尾　人をまとめていけるようになりたいです。チームのみんなで役割分担してやった方が良いことでも１人でやってしまったりするので、他の人に仕事を振ったり、やる気を出してもらえるようにしていきたいです。

Q いろんな回生が参加する授業はそれぞれの大学ではあまりないと思いますが、１回生から見て４回生に対して思うことはありますか。

▶北田　自分は１回生で建築関係の学科ですが、今の段階では専門はないので、文系理系関係なく、3、４回生の専門的な話を聞くとすごいなと感じます。自分にはまだ専門性がないので、辛いなと思います。

▶一同　しっかりしてるから１回生だと思ってなかった（笑）。

▶若山　１回生の時から面白いことを探して、やろうという想いは大切だと思います。自分は４回生になってから初めて単位互換授業を受けているので、もっと早く受講しておけばよかったと少し後悔しています。

▶中島　単位互換の科目は大学の科目と履修の仕方も違いますし、自分から知ろうとする必要があります。

Q この授業を受講して、自分で成長しているなと思った部分やここが変わったなという部分があれば教えてください。

▶古里　授業以外の時間をあけてチームで集まる時など、みんなバイトなんかでスケジュールの調整がとても大変です。今はチームのメンバーのことを考えてスケジュールを組むなど、気配りができるようになりました。

▶海野　自分が主体となって何かしようと思えるようになってきました。みんな忙しい中で課題をこなしているので、その状況を見て「自分もやるしかない」と思っています。やらないと何も進まないので。こうした経験で、社会人になっても自分から行動に移せる人間に一歩、近付けたのではないか、と思います。

Q 最後の質問ですが、この授業で成し遂げたいと考えていることを教えてください。

▶鷲尾　動画を見る人のニーズに合った、役に立つものにしたいです。やるからには本気を出してやろうと思っています。

▶中島　私たちのチームは「清水寺の極み」をテーマに活動しています。清水寺のことを知っている人が見ても、建築の先生たちが見ても「おっ」と思ってもらえるような小話を入れた動画を作りたいです。そのためにもっと清水寺の事も建築の事も勉強しなきゃいけないです。

▶海野　自分たちの個性や長所を掴みつつ、今日の中間発表まで積み上げてきたものを、清水寺としても恥ずかしくない動画として出していきたいと思います。

▶金子松　自分はプレゼンがめちゃヘタなんですけど、今後は作った動画を障害者の方に見てもらうには、どうやったら分かりやすいものになるのか、考えていかなければと思います。

▶古里　どうやってこの動画を広めるかが大事だと思います。例えば、京都市役所の観光課に行って「ホームページにリンクを張ってください」と直談判するとか、この活動を知ってもらうためアピールしたいと思います。

▶岡澤　私たちの提案に先生からご指摘を頂いて、考えて、やり直しをしていたら、最初と比べて、どんどん良くなっていくんです。４月から今までずっと考えてきたものを、上手く動画に組み込めたらと思います。

▶井上　今は４チームで分かれて動画を作っているけど、見てもらう人からすると一つのものです。せっかく作るんだったら個人発表の集まりではなく、全員でまとまったものにして、見てもらえるようにしたいです。

▶北田　まだあまり撮れていないので、撮影へ行くつもりです。せっかく清水寺のホームページに載せていただくんだから、学生が作ったとは思えないぐらいクオリティーの高い作品を作りたいと思います。

▶若山　動画を見た人が最後のクレジットを見て「え、これ、学生が作ったの!?」と驚いてもらえるようなものを目指したいです。「ああ、学生が作ったのか。じゃあ、このクオリティでも仕方ないな」となるのはすごく嫌なので。１人でもそれなりのものはできるけれども、それ以上のものを作っていくにはみんなの力が必要です。そのためにメンバーの良さを引き出しつつみんなで作っていきたいです。１人１人がきっちり仕事をしていきたいです。

インタビューを終えて（事務局より）

様々なバックグラウンド（大学・学部・回生）を持つ 17 名が集まり、和気あいあいと、しかし質の高い成果を目指す学生の姿は大変印象的でした。みなさん、ありがとうございました。

京都世界遺産 PBL 科目の詳細は

京都世界遺産 PBL 科目　検索

2016年度の開講科目についても３月上旬に案内開始の予定です！

【インタビューに参加してくださった学生のみなさん】

井上 水輝 さん　（同志社女子大学表象文化学部３回生）
海野 晃平 さん　（立命館大学経営学部２回生）
岡澤 友香 さん　（龍谷大学文学部２回生）
金子松 美香 さん（立命館大学文学部３回生）
北田 昂大 さん　（立命館大学理工学部１回生）
中島 英里 さん　（龍谷大学文学部３回生）
古里 優奈 さん　（立命館大学経営学部３回生）
若山 優馬 さん　（立命館大学理工学部４回生）
鷲尾 龍之介 さん（立命館大学理工学部３回生）

［特集２］

コンソーシアム事業で活躍し、成長する学生たち 2

京都学生広報部

続いて、2015 年度から大学コンソーシアム京都と京都市の協働事業でスタートした「京都学生広報部」についてご紹介します。現在部員として活動中のみなさんに、京都学生広報部でのやりがいや団体への思いなど、語っていただきました。

京都学生広報部とは

18 歳人口が長期的に減少していく中で「大学のまち・学生のまち」としての京都の魅力を、将来、大学生となる中高生へ今以上に、積極的に発信していくことが必要となります。そこで京都で学ぶ大学生が、学生生活を送る中で実感する「リアルな京都の魅力」を、学生目線で全国の中高生に WEB サイト（コトカレ）で発信していく取り組みを、2015 年度よりスタートしました（大学コンソーシアム京都と京都市の協働事業）。現在 12 大学より約 60 名の学生が部員として登録。企画・取材・編集チーム、広報チーム、総務チームの３つに分かれて、活動を行っています。

Q 京都学生広報部の活動を通して、やりがいを教えてください。

▶山本　大学にこもっていたらできないような事が、他の大学の人たちと共にできるところが魅力だと思います。

▶木村　もちろん、他大学の人と一緒にできる事もあるんですけど、もともと興味があることは、かたっぱしから何でもやってみるタイプなんです。流れでここにいますが、記者がくるイベントに参加できたり、とりにくいアポイントメントをとり、オフィシャルな場に取材へ出る事など、いろいろ経験できるのが面白いです。

▶石川　学生広報部の SNS（ツイッター）担当をしているので、編集チームや総務チームの記事を広報できる事ですね。もともとは携帯ぎらいだったんですけど、自分が伝える側に回ったのが大きな転機になりました。受験生に対して自分の大学生活や実習と絡めて、情報発信するのも楽しいです。また一読者として、コトカレ記事の掲載も楽しみにしていますし、いずれは京都に何か恩返しができるといいなと思います。

▶中村　京都学生広報部の活動の全てが、未来に繋がっていく感じがしています。理由は２つあって、中高生が京都にくるような活動をしていること。もう1つは、自分が将来やりたい「コミュニティデザイン」に繋がりそうだと思うからです。ポスターや WEB デザインの制作に取り組む事で、宣伝やデザインをつくる力を磨きたいです。

▶石永　僕はライター目線になりますが、自分の名前で書いた記事がネット(コトカレ)に載る時です。また最近 Google Analytics を使い、記事の PV 数を見てるんですが、自分の記事の PV 数が前より伸びていると嬉しくなります。あとは PV 数の高い記事を読んで研究をしています。人気のある記事は読んでみると、実際面白いんですよ。

Q 発足したての団体に対して思うこと(いい面)を教えてください。

▶石川　一番はみんなに会えた事かな。とにかくいろんな大学生と関われることが、自分にとってプラスになっています。今、同じ広報チームのメンバーから「組織の回し方」について、間近で話を聞かせてもらっているんですけど、最近、自分の中でシミュレーションができるようになってきました。これは関わらなければできなかったこと。将来、自分のために役立つのではと思っています。

▶木村　最初はよそよそしかったメンバーとも、会議や個人 LINE を重ね、サイトオープンする頃には、打ち解けられました。また学園祭取材を行った時は、他チームとも一緒にできたので、知らない人同士で仲良くなれました。

▶中村　なんでもチャレンジできそうなところです。僕は広報チームの新規企画部門にいるんですが、考えた企画案は「いっぺんやってみよう」という流れになるのが嬉しいです。

▶石永　（編集チームの）人数が少ないところ。いい意味で責任感があり、積極的に参加した人は自分のやりたいことがたくさんできます。

Q では、反対に改善したい面はありますか？

▶山本　改善したい面は２つあって、まず特定の人に負担がかかりすぎている気がします。もう少しリーダー的な存在が増えればと思います。あとは学園祭企画など、特別ユニットを組んだ時に、各チームのリーダー、副リーダーがプロジェクトリーダーを兼任すると負担があるので、そこをやると言ってくれる人がでてきたらいいなと思います。みんなが言える雰囲気も作っていけるようにしていきたいです。

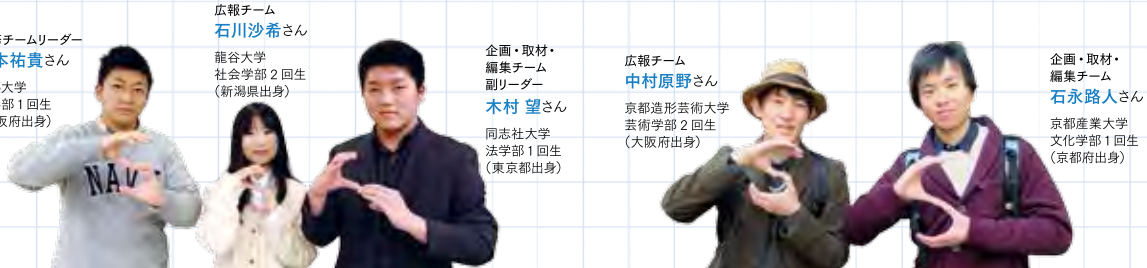
▶木村　編集チームの体制が、まだ手さぐり状態なので、そろそろ決まった形がほしいと思っています。あとは、「主体性・モチベーション・フットワーク」があると、どのチームでも活動しやすいし、この３つがあればあるほど、自分も楽しく動けると思います。

▶石川　自分のチーム以外の動きがわかりにくいところですね。各チームの会議の議事録を読んでいますけど、どんな人が動いているのか、プロジェクトによっては中心が誰なのかわかりづらいです。また部員に情報が伝わるまでに、時間差があるように感じます。

▶山本　今は３チームが顔を合わせる機会があまりないので、月１回は全員同じ日に会議を行ったり、懇親会の出席率をあげたりして、もっと交流できる場を増やしたいですね。

▶中村　僕は中高生に読んでほしい記事の内容が、まだ定まっていないと感じる時があります。あとは鮮度が大事な記事の掲載に、時間がかかる点。編集チームと広報チームの交流も増やしたいです。

インタビューに参加してくださった学生のみなさん



総務チームリーダー
山本祐貴さん
京都大学
法学部１回生
（大阪府出身）

広報チーム
石川沙希さん
龍谷大学
社会学部２回生
（新潟県出身）

企画・取材・編集チーム
副リーダー
木村 望さん
同志社大学
法学部１回生
（東京都出身）

広報チーム
中村原野さん
京都造形芸術大学
芸術学部２回生
（大阪府出身）

企画・取材・編集チーム
石永路人さん
京都産業大学
文化学部１回生
（京都府出身）

▲ 結団式の様子

▼ 学園祭取材の様子
（京都学園大学）

▶石永　（編集チームの）人数が少ない分、取材依頼がきても対応できずに断る時があります。せっかくならその分野に興味がある人に取材にいってほしい。もっと人数が増えれば、興味の幅も多種多様になり、取材に行きたい人も出てくるんじゃないか、もったいないなと思いますね。

Q 京都の大学生になって思うことを教えてください。

▶山本　京都は日本の縮図だと思うんです。観光地や過疎地、海もあるし。また東京に比べて、いろんな地域に日帰りでいけるのも魅力で、研究や勉強をする上では学びやすい環境だと思います。

▶木村　京都は伝統格式のイメージが強いんですけど、住んでる人はソフトというか、進取気質があります。その２つが入り乱れてるのが面白いですね。外国人観光客や留学生も多く、交流できる場はすぐそこにあるし、小中高生が全国から集中して、若さと開放感にあふれています。あとは授業の空きコマで世界遺産を見に行ったりしています。

▶石永　通学途中や授業終わりに、上賀茂神社や八坂神社、四条の商店街といった場所に寄り道するのは、けっこう楽しみです。

Q 活動を通して印象的だったシーンはありますか？

▶木村　この間、京都市の紹介でスターバックス コーヒー ジャパンの関根CEOに取材をさせてもらったんですけど、プロの報道に交じり、現場を体験できたことがとても良かった。学生だけじゃできない思わぬ角度から紹介がくるので、受けられるものは受けていきたいです

▶中村　９月の決団式です。ようやく船出という気がして、これからやってやるぞという気持ちになりました。

▶石永　学園祭取材で京都工芸繊維大学へ行った時に、大学の方から「コトカレや記事を見たよ」と声をかけられた事です。また、事前の補足説明をさせてもらった時に「掲載される記事を期待してるよ」と言われ、嬉しくなりましたね。

▶石川　京都市の市民しんぶんプロジェクトに参加した時に、大谷大学の荒瀬克己先生からお話を伺う機会がありました。そのお話が本当に良くて。「扉はすぐそこに」という先生の言葉が強く印象に残ったんです。その時に受け身ではなくアクティブに行動して答えを求めることが大事だと、学びに対する姿勢を教えていただきました。人の言葉を受け売りにするのではなく、印象に残った事を大切にしていきたいと思いました。

▲ スターバックス コーヒー ジャパン　関根 CEO と共に

Q ターゲットである中高生に対して思うことはありますか？

▶中村　コトカレを見て、100％京都に来たいと思うのではなく、0から1になるぐらいの気持ちの変化を起こせればいいと思うんです。選択肢の一つになればと思います。

▶石永　取材した記事を文字で表現するのには限界があります。ぜひオープンキャンパスや修学旅行で京都に訪れる機会を作ってほしい。あと祇園祭の「お囃子」なども動画で伝えていきたいです。

▶石川　京都の大学で学ぶよりも、関東や別の大学の方が合う人もいると思います。でも、京都で頑張っている人がいると知って、自分も頑張ろうと思ってくれる受験生もいるかもしれません。人に焦点をあて「この人すごいな」と、見た人の印象に残るような情報を発信していきたいです。　［取材日］2015年12月4日、7日

総務チームからのお知らせ

京都学生広報部では部員を募集中です！人に何かを伝える事を楽しめる人にぜひ参加をしてほしいです。興味をもった方は、一度、京都学生広報部サイト「コトカレ」までお問い合わせください！

京都全体の大学生のイキイキ感や姿勢を取材することで、取材を受ける人も記事を読む人も、きっと世界が広がります。

京都の大学生のリアルなライフスタイル紹介メディア

▼ 京都学生広報部サイト「コトカレ」【HP】
https://kotocollege.jp/

《 その他、大学コンソーシアム京都の取り組みに参加する学生団体をご紹介します》

- 京都学生祭典　【HP】http://www.kyoto-gakuseisaiten.com/
- 京都国際学生映画祭　【HP】http://www.kisfvf.com/
- 京都留学生 PR チーム　【FB】https://www.facebook.com/studykyoto/
- 留学生コミュニティ KyoTomorrow Academy
  【HP】https://www.facebook.com/KyoTomorrowAcademy/
- 京都から発信する政策研究交流大会（学生実行委員）
  【HP】http://www.consortium.or.jp/project/seisaku/conference

入部のきっかけ

山本　広報とか向いてないと思うんですけど、どんな事をするにも、人に知ってもらわないとどうにもならない。ここで、人に伝えられる事を学べたらと思いました。

石永　掲示板で見た時は入る気なんてさらさらなく…（笑）。授業で配られた募集チラシを見て、趣味のカメラを活かしたいなと思いました。ライターは初めてです！

木村　自大学のホームページに募集が出ていたので応募しました。知らない人と会うのも、けっこう好きなんです。

京都学生広報部の歩み

2015.6月	京都学生広報部　部員募集説明会
↓	
2015.7月、8月	京都学生広報部研修会
↓	
2015.9月1日	京都学生広報部　結団式
↓	
2015.10月1日	公式WEBサイト「コトカレ」open!
↓	
2015.10月25日	京都の大学「学び」フォーラム2015で企画実施

京都の魅力

中村　海外の人が多く、いろんな言語が飛び交っているイメージです。

石川　新潟県の自分の出身地と比べ、大きく環境が違います。また観光学を学んでいることもあり、街並みを見て勉強になるだけではなく、息抜きもできます。都会でありながら、日本古来のものが残っている街ですね。

石永くんのベストショット　（左）都ライト'2015 での１枚　（右）京都国際マンガミュージアムでの１枚

↑ 格子に光があたっています。暗闇の中にいる人影は広報部員で、人がいた方が現場の雰囲気や活気も伝わると思い、わざわざ歩いてもらいました。

↑ 取材に行く前から構成を決めていました。建物が大きく、何回も付き合ってもらって微調整をしながら撮影したのがこの一枚。実はまだ満足してないんです（笑）。

Topics

大学コンソーシアム京都
今後の事業の展開

大学コンソーシアム京都では、2014 年度より「第 4 ステージプラン」に基づき、5 か年計画で事業を進めています。
ステージプランの中間期を迎える 2016 年度の各事業の取り組みをご紹介いたします。

● 単位互換事業

単位互換制度とは、他大学が提供する正規科目を履修し、その単位が基準に基づき自大学の単位として認定される制度です。大学コンソーシアム京都では約 50 の大学・短期大学部が一同に協定を締結し科目を提供しており、日本で最大の規模を誇ります。2016 年度は、2015 年度に新設した古都・京都にある世界文化遺産をフィールドに行う「京都世界遺産 PBL(※1) 科目」の充実をはじめ、特色ある科目の開設促進をすすめて質的向上を目指します。

▲ 京都世界遺産 PBL 科目の実習風景（2015年度）

（※ 1）PBL ＝ project besed learning 課題発見解決学習

● 生涯学習事業（京カレッジ）

大学コンソーシアム京都は 1997 年度から大学生の単位互換制度と連携した市民向けの「シティーカレッジ」を開講してきました。現在は京都市とともに、大学コンソーシアム京都の加盟校が有する知の資源を地域に開放する生涯学習事業「京（みやこ）カレッジ」と名称を変え、400 を超える科目を提供しています。2016 年度は「大学講義」「市民教養講座（市民教養講座、京都力養成コース）」の区分で科目・講座提供を行い、今後、地域人材の育成を含めて、より特色ある内容の充実を図っていきます。

▲ 京カレッジ京都力養成コース「京都学講座」

● 高大連携事業

2016 年度の高大連携事業では、2015 年度に引き続き、高校生・大学生を対象とした「キャリア教育」の視点に重点を置き、質の向上に努めます。2015 年度まで実施してきた事業についてはプログラムの改善と整理を行い、①高大連携教育フォーラム、②京都府北部地域生徒向けキャリア教育企画（まるっとーく）、③女子生徒・学生向けキャリア教育企画（ガールズキャリアトーク）の 3 事業を中心に、内容の充実を図ります。

▲ まるっとーく

● インターンシップ事業

2015 年度にインターンシップ・プログラムの過年度修了生に対し、アンケート調査を行いました。この調査の中間報告では、本プログラムが教育プログラムであり、大学間を横断し学生同士が学びあう場としての、独自性や優位性を示すデータが提示されるなど、過年度修了生からも一定の評価をいただいています。また、2015 年度には、「修了生サポーター」として登録を依頼し、100 名を超える修了生に協力をいただきました。社会人を含めた「修了生」のバックアップ体制の構築について、検討を進めます。また、プログラム全体の見直し、改善については、引き続きインターンシップ事業企画検討委員会を中心に推進します。

▲ インターンシップ

● FD 事業

FD フォーラムについては、参加する大学教職員・関係者の FD に対する意識を高めることを目的としたシンポジウムの開催や、加盟校を中心とする各大学の取り組みや事例の発信、および大学教育関係者の情報交換・交流の場を提供する企画を検討します。
FD 企画研究事業では、実施運営体制を 2 チームに再編し、各種事業に機動的に対応できるようにしており、この効率性を生かし、アンケートや委員の所属大学から日常的な FD ニーズの把握に努め、より実効性の高い FD プログラムの提供を目指します。具体的には学長など大学執行部向け、新任教員向け、FD 推進担当者向けと対象者を階層別に分けた体系的な研修の企画・運営を行います。

▲ FD フォーラム

● SD 事業

SD 事業は、加盟校の大学職員を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための様々な研修事業を展開しています。SD 分野で関心の高まっているテーマを取り上げ、基調講演および分科会における事例報告や意見交換を通じて、大学職員のスキル向上や大学の枠を越えた情報交流の場を提供することを目的とし

た「SD フォーラム」をはじめ、「SD ワークショップ」「大学職員共同研修」を実施しています。また 2015 年度から次世代の大学運営を担うプロフェッショナル職員の育成を目的として、「SD ゼミナール」を実施しています。（次頁の「information」もご覧下さい）

▲ SD フォーラム

● 国際連携事業

2015 年 5 月に大学コンソーシアム京都が事務局を務める産官学オール京都の「留学生スタディ京都ネットワーク」が創設され、留学生誘致・支援を一層強化していくこととなりました。また 2015 年 10 月からは文部科学省の委託事業の採択を受けて留学生の就職や交流を支援する留学生コミュニティ「KyoTomorrow Academy」を開始したところです。2016 年度についても、既存事業である「短期留学受入事業」等と併せて、一層の留学生受入れ促進を図ります。また、日本人学生の海外留学の促進については、海外留学フェアや TOEFL などの語学研修支援に加え、今後は学生が英語で京都の魅力をプレゼンテーションできるような研修を新たに検討していきます。また大学教職員向けの英語研修についても好評につき継続予定です。

▲ Kyoto Tomorrow Academy

● 京都学生祭典 学生実行委員募集中

京都学生祭典は、学生の力で京都を盛り上げようと 2003 年度から毎年 10 月、平安神宮前・岡崎公園一帯（京都市左京区）をステージに繰り広げられる一大イベントです。この祭典は、学生で組織する京都学生祭典実行委員会が中心となって企画・運営し、京都府や京都市、経済団体、大学が「オール京都」体制でバックアップしていることに特徴があります。

学生実行委員は、祭典当日の企画・運営だけでなく、祭典から誕生したオリジナル創作おどり「京炎 そでふれ！」を用いたふれあい企画など 1 年間を通した地域交流活動をしており、2016 年度は新たに「地域活性化プロジェクト」を立ち上げ、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力を発信していきます。

▲ 京都学生祭典（平安神宮前）

● 京都国際学生映画祭 学生実行委員募集中

京都国際学生映画祭は、学生が主体となって運営を行う日本最大の国際学生映画祭で、2002 年（第 5 回）から大学コンソーシアム京都の主催事業として展開しています。京都国際学生映画祭では、学生実行委員会が、国内外を問わず、広く学生監督の映画・映像作品をコンペ形式で募集し、選考した作品を上映する京都国際学生映画祭（11 月開催）の企画や運営、PR を担っていきます。

▲ 京都国際学生映画祭（京都シネマ）

● 施設管理事業

京都市から管理を委託されている「京都市大学のまち交流センター」（愛称：キャンパスプラザ京都、2000 年開館）の指定管理者（2015 ～ 2018 年度）として、講義室や演習室の貸し出し、利用環境の整備他、施設の管理・運営について京都市と連携して適切に行っていきます。

● 調査企画事業

大学コンソーシアム京都の事業を客観的に点検する共通指標を作成し、各事業の改善に役立てていただくとともに、統一的なデータ収集を推進します。

また、大学コンソーシアム京都の事業や加盟校へ資するための調査・研究を実施、サポートします。

● 大学のまち京都・学生のまち京都 推進会議

大学、行政、産業界及び市民の意見をいただき、「大学・学生のまち」である京都を発展させるための事業の改善・創出を目指します。

● 広報事業

大学コンソーシアム京都事業の広報力強化のために、大学コンソーシアム京都 WEB サイトのアクセス解析、SNS(Facebook) の戦略的・積極的な活用、事業専用ページや京都学生広報部 HP「コトカレ」との連携を深めていきます。

また、京都学生広報部では、読者層である中高生との交流や加盟大学・短期大学への取材を強化して、京都での大学生活の魅力を現役大学生の目線から発信します。 京都学生広報部員募集中

● 都市政策研究推進事業

「京都から発信する政策研究交流大会」は、学部生・大学院生が、都市が抱える問題について多様な分野からのアプローチで研究発表を行います。2014 年度より、芸術文化、ワーク・ライフ・バランスなどのテーマを加えることで、参加者や研究発表に広がりが出てきました。大会の運営は、学生実行委員が主体となって実施しており、当日の企画も立案・実施します。

また、京都市との協働事業である「学まちコラボ事業」は、地域の活性化を目指して、学生団体と地域が協働する特色のある取り組みに支援を行っています。2016 年度は、学生団体間の交流を充実させます。

▲ 学まちコラボ（大学地域連携創造・支援）

▲ 京都から発信する政策研究交流大会

政策研究交流大会 学生実行委員募集中

Information

SD ゼミナール　2015年度実施報告 & 2016年度予定

教育開発事業部

大学コンソーシアム京都では、2015 年度から、加盟校を中心とする各大学・短期大学における次世代の大学運営を担うプロフェッショナル職員の育成を目的として、ＳＤゼミナールを開講しています。

【研修の目的】

- 大学職員として必要な知識を体系的に習得できるカリキュラムを提供し、今後の大学運営を担ういわゆる「プロフェッショナル」職員の育成を目指す。
- 5 年以上の職務経験を積んだ職員を対象とし、ステップアップをめざしている職員の導入的な研修プログラムとする。
- 受講生が大学の枠を超えた人的ネットワークを形成し、所属大学において、今後の大学間連携や交流のキーパーソンとなるような機会を提供する。

【研修の到達目標】

- 大学職員として必要な基礎知識（高等教育制度、学生実態の把握、大学と社会との関連等）を得る。
- 他大学の職員と共に学び、情報交換することを通じて、自大学と異なる事例や取り組みに関する見識を深める。
- 受講生間で親交を深め、大学の枠を超えた人的ネットワークを形成する。
- 相互に切磋琢磨する環境の中で、職業人として自律的に学習・考察する態度を身につける。

【2015 年度講義実績】

開講日時		講義テーマ
6月13日(土)	第１回	**大学内外での学びと実践**　人と出会い、学び合うことによって、新たな自分に気づく
6月20日(土)	第２回	**大学の歴史と制度**　大学の歴史的展開と大学改革の動向
6月27日(土)	第３回	**学生と大学教育**　学生の学びの実態とは―高校教育との接続から考える
7月4日(土)	第４回	**大学職員と“こころ”**　臨済宗妙心寺派大本山　妙心寺での実践研修
7月11日(土)	第５回	**大学組織の活性化**　内発的モチベーションを考える
7月18日(土)	第６回−1	**大学と社会**　地域連携の意味と大学の役割
	第６回−2	**アカデミック・プレゼンテーション**　プレゼンテーションの「スキル・ツール・マインド」
7月25日(土)	第７回−1	**大学の戦略とリーダーシップ**　戦略を創出する組織づくり
	第７回−2	**アカデミック・ライティング**　事実に基づき、論理的に説明する能力を身につける
9月12日(土)		**受講生公開プレゼンテーション・修了証書交付式**
10月31日(土)		**修了レポート提出締切**

【ＳＤゼミナール研修風景】

【2015 年度ＳＤゼミナール受講生からの声（アンケート調査から）】

- あらためて職員としての自覚、学ぶことの意義を再確認しました。
- 現在の業務への取り組みの不安や自分自身の能力不足を感じることが多くなり、仕事へのモチベーションの維持が難しくなっていたため、刺激を受けるため参加しました。受講して、学ぶことが楽しく、研究を深めたいと思うようになりました。
- 職場の後輩に受講を薦めます。

【2016 年度開講予定】

講義テーマは基本的に 2015 年度と同じです。

[開講日] 6月11日（土）、6月18日（土）、6月25日（土）、7月2日（土）、7月9日（土）、7月16日（土）、7月23日（土）の計７回の講義
9月10日（土）受講生公開プレゼンテーション
[開講場所] キャンパスプラザ京都
（7月2日（土）は臨済宗妙心寺派大本山妙心寺にて実施予定）
[参加費] 加盟校職員：30,000 円　非加盟校職員：60,000 円
受講生の募集については、2016 年 3 月頃に「大学コンソーシアム京都」の WEB サイトにてお知らせいたします。

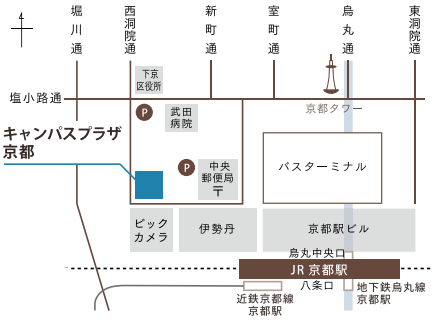
大学コンソーシアム京都 公式 facebook 「1000」いいね 達成！

大学コンソーシアム京都の公式 facebook が、1000 いいね！を達成いたしました。皆様ありがとうございます。
これからも大学コンソーシアム京都の様々な取り組み・最新情報をお届けしていきます。是非 facebook ページへお越しいただき、「いいね！」をお願いします。

大学コンソーシアム京都

大学コンソーシアム京都 WEB サイトのご案内

大学コンソーシアム京都　公式ＷＥＢサイト
http://www.consortium.or.jp/

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 The Consortium of Universities in Kyoto

〒 600-8216
京都市下京区西洞院通塩小路下ル
キャンパスプラザ京都
TEL：075-353-9100
FAX：075-353-9101
E-mail：pr-ml@consortium.or.jp
ホームページ：http://www.consortium.or.jp/